

校章の由来

望月高校が発足(1951年(昭和26)年)とともに校章も制定された。望月高校発祥の地が「ひばりヶ丘」というところから、ひばりの羽を広げた姿を形どった、希望と青春の躍動を象徴し望月高校の前途の躍進を暗示した校章が生まれた。

校旗の誕生

「自由と正義と愛校精神のシンボル、新校旗がP T A各位の絶大なる援助と生徒会の熱意の下にこのほど製作された。」(望高新聞)「わが校旗は、ひばりヶ丘という地名から望月高校を意味するように作られた校章を中心に、95センチ×65センチの矩形である。絹綾錦地に紅海老茶の京染め、金糸で校章の部分の刺繍、房、モールなどが、施されている。」

校歌の誕生

作詞については国文学者として有名な藤村作先生に交渉して引き受けてもらうことになった。しかし「藤村先生が当地においでになったことがないので此の度、参考資料として生徒から作品を募集し、佳作を送ることとなった」。当時二年生の中村実の作品が骨子となって現在の校歌がうまれたのである。1952(昭和27)年2月8日、信時潔先生から校歌の楽譜が到着し、ここに正式に校歌がうまれたのである。